



2022

分科会 8.26(金) 全体会 8.27(土)

第70回 日本PTA全国研究大会
第54回 日本PTA東北ブロック研究大会

山形大会

『人とひとのつながりを体感しよう!』

～あがらっしゃい精神の山形から～



ごあいさつ



公益社団法人
日本PTA全国協議会
会長 清水 敬介

2020年初春から全世界に広がった新型コロナウイルス感染症のため、子どもたちの学びの環境も、全国のPTA活動も、従来とは違う形となってしまいました。しかし、このような事態であるからこそ、日本PTAは日本最大の社会教育関係団体として歩みを止めないよう活動を続けております。

この山形大会は、スローガンにある「人とひとのつながりを体感しよう!～あがらっしゃい精神の山形から～」の想いを軸に開催されます。コミュニケーションの基本である“会う”ことが極端に制限され、本来大切な“つながり”というものを感ずることができなくなっているWithコロナの時代であるからこそ、参加者が“つながり”を体感できるような大会にしたいとの強い想いが、山形の方言でありおもてなしの言葉である「あがらっしゃい」に込められています。

子どもたちの学びの時間は失われたら戻ることとはなく、家庭・学校・地域の懸け橋となるPTAには、今強い期待が寄せられています。

山形の地に多くの皆様が集い、学び合うことで、子どもたちのより良い教育環境の実現と、更なるPTA活動の発展に寄与する大会となるよう準備してまいります。

ご来場を心よりお待ちしております。

大会趣旨

「Withコロナ」に生きる。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより世界は一変し、未知のウイルスが存在することを前提とした社会に共存することとなり、誰もが好むと好まざるとにかかわらず新しい生活様式への変容を余儀なくされ、私たち大人も適応していくことが困難な時代となりました。

私たちは、人とひとの「つながり」の中で生きています。その「つながり」とは、先祖代々からの「いのち」のバトンをつなぎ、「ふるさと」を愛し未来に心をつなぐこと。PTAは、家庭と学校そして地域をつなぐ大きな役割を担っています。子どもたちの健やかな成長には、家庭や学校はもとより地域とかかわり、社会性をまなぶことが必要です。多くの人とひとの「つながり」があって生きる力を「まなぶ」のです。

「Withコロナ」の時代、自由に集えないなどその「つながり」が希薄になり、気付くことすら難しい状況となっています。当たり前と感じていた「つながり」は、当たり前ではなかったことに気づかされました。PTAの目的は、より良い社会を目指し活動をしています。そのためにも子どもたちの健全育成が必要であり、さらに家庭・学校・地域のつながりをより強いものにしなければなりません。そのつながりは、創られるものではありません。私たちPTAが積極的に創っていくものなのです。

俳聖・松尾芭蕉の「奥の細道」における山形県の出羽三山の旅は、心の旅といわれるように、いにしえの時代から山形県は人とひとの心をつなぐ「あがらっしゃい」の精神が色濃く残るおもてなしの地であります。このおもてなしの地、山形で、そして70回目の節目を迎える本大会で、わが国最大の社会教育関係団体としての自覚と責任を持ち、すべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを体感出来る絶好の機会を共に創りましょう。

メインテーマ

- ・「いのち」のつながりを感じ、次代につなぐPTA活動
- ・「ふるさと」を愛し、心をつなぐPTA活動
- ・生きる力を「まなび」、次代につなぐPTA活動
- ・多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらくPTA活動

第2分科会	【学校教育】
酒田市民会館	希望ホール
全体会 サテライト会場	
酒田市民会館	希望ホール
第7分科会	【社会教育】
鶴岡市文化会館	荘銀タクト鶴岡
第4分科会	【人権教育】
長井市民文化会館	



第3分科会	【地域連携】
新庄市民文化会館	
第1分科会	【家庭教育】
村山市民会館	
第8分科会	【環境・安全】
寒河江市市民文化会館	
特別第1分科会	【日本PTA担当】
天童市市民文化会館	
全体会 メイン会場	
山形市総合スポーツセンター	
特別第2分科会	【文部科学省協力】
やまぎん県民ホール	
全体会 サテライト会場	
やまぎん県民ホール	
第5分科会	【広報活動】
高畠町文化ホールまほら	
第6分科会	【情報教育】
伝国の杜 置賜文化ホール	

日程

分科会 / 8月26日(金)
山形県内10分科会

全体会 / 8月27日(土)
＜メイン会場＞
山形市総合スポーツセンター
＜サテライト会場＞
やまぎん県民ホール
酒田市民会館 希望ホール

参加者 / 全国小・中学校PTA会員及び関係者8,000人
参加費 / 一人 5,000円

全体会記念講演 8月27日(土)



飯森 範親氏

【プロフィール】

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは正指揮者として密接な関係を続け、現在は特別客演指揮者。03年、NHK 交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞。海外ではフランクフルト放聲、ケルン放聲、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴュルテンベルク・フィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。東京交響楽団特別客演指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者、2007年山形交響楽団音楽監督、2019年シーズンより同楽団芸術総監督に就任。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2021年4月より東京ニューシティ管弦楽団ミュージック・アドヴァイザー(次期音楽監督)に就任。2020年10月、新国立劇場のシーズンオープニング公演であるプリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を取めた。